

観光戦略における利害調整プロセスの研究

研究の概要

観光の運営がうまくいくかどうかには、戦略的思考をもつことが重要だと考えられています。戦略的思考とは、環境の変化やそれへの適応を前提として、獲得すべき目標を冷静に分析し、それに向かう適切な活動を確定することを考えることで、経営体が成功するのがあるいは失敗するのかに多大な影響を与えるものとされています。

しかし、戦略はただ単に環境の変化に応じて決めればいい、というものではありません。特に観光に関する事業は、多くの場合人的サービスが中心になるわけですから、実際にサービスを提供する人々が当該経営体の戦略を十分に理解しておく必要があるでしょうし、また、地域全体の観光の運営の場合には、まったく異なった利害を持つ集団（企業や組織など）をまとめあげた上で戦略を策定する必要があります。つまり、そこに関わる人々（組織）をいかにして経営体（地域）あるいは経営体（地域）の戦略にひきつけるのか、ということが戦略策定・実行における重要な課題となります。

こんな課題解決のために

観光を通じた地域の発展を考える場合、それによる恩恵に預かるのも、それによる害悪を受けてしまうのも、結局は地域全体（地域の人々・組織）ですので、その地域の観光戦略は地域の人々によって策定されるべきだと考えています。その際に、観光戦略（観光地戦略）に関する理論を紹介することによって、地域全体の向かうべき方向を決めることのお手伝いができるかもしれません。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

観光庁「観光地域づくり人材育成ガイドライン検討会」委員
幕別町「地域活性化事業」など

研究者からのメッセージ

観光は、それがうまくいくかどうかは観光資源の有無や、観光資源の集客力によって決まるというように受け身的に理解されることが多いのですが、どのような観光地にしたいのか、観光によってどんな形に地域を発展させたいのか、といったことは本来的には地域が主体となって決定するものはずです。

研究分野 : 観光戦略論

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・竹林浩志

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp